



チャイルドラインあいち



特定非営利活動法人 チャイルドラインあいち



目 次

はじめに	下田 一幸	1
チャイルドラインとは		2
【特集】子どもアドボカシー		3
2021年度 受信データ		5
全国各地のチャイルドラインで受けた愛知県の子どもからの電話		
チャイルドラインあいちが受けた電話の概要		
チャイルドラインあいちが対応したオンラインチャットの概要		
チャイルドラインにかかってきた子どもの声		
【特集】オンラインチャット		14
2021年度 活動の記録		16
各部の活動		
養成講座		
公開講座		
おわりに　　—2021年度を振り返って—	服部 はつ代	20
ご支援・ご協力いただいた皆様		21

はじめに

チャイルドラインあいち代表理事
下田 一幸

ある心理学によると、褒めて育てる子育ては間違っていると言うのです。子どもの頃から褒めて育てられ、それなりに楽しく 65 年以上の人生を送った私自身としては、とても不思議な理論です。

しかし、なぜ間違っているのでしょうか？それは、褒めるということは、叱るということと同じで、上から下に向かって評価する姿勢だからなのです。子どもは、褒めて（ばかりで）育てられると、親の評価だけを気にするようになるのです。

極端な場合、親に評価されないことはやらなくなってしまいます。親の顔色を窺い、そして、最終的に子どもの自主性を奪ってしまうぞと言う警鐘です。人と人とは対等の関係にある。小さな子どもも例外ではないということです。

それでは私たちは、どうしたらしいのでしょうか？

それは、子どもに寄り添って「子どもの適切な行動に対して承認する、共感する、応援する、勇気づける」のが良いそうです。これは横の関係だからです。人生の課題は原則として本人が解決しなければならないのです。余分な手出し口出しをしないで、対等な横の関係を意識して育てられた子どもは、親の人生ではなく、自分の人生を歩みます。アドラー心理学による一つの考え方です。

私たちチャイルドラインの活動は、「傾聴」を重視しています。電話の向こうの子どもたちの言いたい事をじっくり聴いて、聴いて、徹底的に聴いて、そっと応援します。あなたは、日常のチャイルドライン活動の中で、電話相談の限界を感じたり、もどかしさを感じたりすることはありませんか？何かもっともっとやれるのではないかと。

でも、評価を加えない「傾聴」には、子どもたちを元気にする力があります。子どもたちの内なる力を信じてしっかりと聴き切ってあげてください。急がば回れ、私たちの活動は、電話をかけた子どもたちの自尊感情や自主性をそっと静かに育てていくのです。

会員の皆様、もう一度そんな自信を持って、2022 年度、明日からのチャイルドライン活動を続けていきましょう。

チャイルドラインとは

～チャイルドラインは「18歳までの子どもがかける子ども専用電話・オンラインチャット」です～

おとなが解決を図るのではなく、子どもの気持ちをじっくりと聴き、子どもが自らの力で一歩を踏み出せるように、見守り寄り添う電話・オンラインチャットです。フリーダイヤルで匿名でかけられ、秘密は絶対に守られます。

チャイルドラインは1986年にイギリスで生まれ、日本では1998年に始まりました。現在、チャイルドライン支援センターに登録している全国の68の実施団体が電話を、そのうち25の団体はオンラインチャットも受けています。

あいちでは2000年9月にNPO法人名古屋おやこセンターがチャイルドライン事業として開始、2004年11月からは「NPO法人チャイルドラインあいち」として活動しています。2009年4月には全国統一フリーダイヤル化され、日本中の子どもが無料でどこからでもかけられる電話になりました。2019年よりオンラインチャットも開設しました。

子どもたちは電話・オンラインチャットの中で、自分の気持ちや抱えている困難について話すことで、混乱した感情を整理したり、自分の気持ちを確かめたりします。また、自分を受けとめてもらえた、認めてもらえたと感じると心が落ち着き、なにかきっかけをつかんだり、新たな一歩を踏み出したりすることもあります。

子どもが誰かに話したいことがある時、ただなんとなく誰かとつながってみたい時など、気楽に話してみようと思ってもらえる電話・オンラインチャットであることを、なによりも大切だと考えています。子どもたちがほっとできる「場」のひとつになることも、チャイルドラインの役割です。

- ①子どもを一人の人間として尊重し、子どもの目線に立ってものごとを理解すること
- ②おとの考え方を押し付けるのではなく、子どもの主体性を尊重する
- ③子どもたちが傷つけられることなく、安全で幸せに育つ権利を保障し、推進していく立場に立つこと

子どもに対するこれらの基本姿勢は「子どもの権利条約」の理念に基づいています。1999年1月設立のチャイルドライン支援センターの定款には「この法人は悩みを持つ子どもたちの声を受けとめ自立を助ける『チャイルドライン』の重要性について社会的認識を高めるとともに、各地で『チャイルドライン』を設立する団体に対し、支援、助言を行ない、もって子どもの権利条約が保証する子どもの諸権利を実現するための社会基盤作りに寄与することを目的とする」と明記されています。

【特集】子どもアドボカシー

児童福祉法の改正が国会で論議され、2023年には社会的擁護下にいる子どもたちに向けて、施設への意見表明支援員（子どもアドボケイト）の配置が義務付けられます。

子どもアドボケイトとは、子どもの側に立って子どもが自ら気持ちや意見を発することを支援したり、依頼されたら子どもの代弁をすること。そういう子どもアドボケイトの活動が全国に広がろうとしています。

チャイルドラインで子どもの声を聴いていると、ただ話を聴いているだけで何もできないと無力感に陥ることもありますが、電話やオンラインチャットで、子ども達が自らを語るかたわらで私たちがしていたことは意思表出支援であり意見形成支援という大きな意味があったのです。

子どもが自分の思っていること、考えていることを表出して他人に聞いてもらうは子どもの権利の一つとして重要な位置にあります。子どもの権利条約第12条、意見表明権と呼ばれている条文です。子どもにはその権利が自分にあることに気が付いて、それを活かしてほしい。

全ての子どもにアドボカシーは必要です。チャイルドラインと子どもアドボカシーの活動がどのような連携をすれば、子どもの声が社会に届くのか、チャイルドライン支援センターでも全国の団体と学ぼうという動きが始まります。そこで今回、子どもアドボカシーの先駆者でもあります「子どもアドボカシーセンターNAGOYA」の奥田陸子代表に寄稿をお願いいたしました。

チャイルドラインと子どもアドボカシー — 共通点と相違点を見る —

一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA 代表 奥田陸子

こんにちは、チャイルドラインあいちの皆さん、私は子どもアドボカシーセンターNAGOYAの奥田です。私たち二つの団体は、どちらも「子どもの声を聴く」ことを仕事にしています。この二つの団体は、一部共通の目的で働いていますが、違う点もあります。両者の共通点と相違点を考えてみました。

●両者の共通点は？

- ・対象としているのは子どもである。
- ・どちらも、子どもの声、子どもの気持ち、子どもの考えを聴こうとする活動をしている。
人間はどんな子どもも大人も社会的動物であり自分がいて他者がいるところで暮らしている。他者に何かしてほしい、語りかけたい、何もしてほしくないも含めて。チャイルドラインも子どもアドボカシーも、そういう人間の子どもの声を聴く活動である。

●両者の違いは？

- ・チャイルドラインは：子どもの方から自発的に大人に声掛けをする（電話で）。子どもから「聴いて、聴いて・・・」。大人はそれを受けて、聞かせてもらう。何が言いたいのか・・・。子どもが何かしら他人に聞いてほしいことを心に持っている。それが何なのか。呼びかけられた大人は、子どもが自分でその答えを見つけるのを手伝う。大人は辛抱強く聞かせてもらうだけ。おとなは顔を見せない。声だけで対応する。子どもはその声で、大人の話しかけでエンパワーされる。
- ・子どもアドボカシー（とくに独立/専門アドボカシー）は：大人の方からの必要があって子どもに働きかけて、子どもの声を聴く活動である。（子どもアドボカシーにはいろいろある。セルフアドボカシー/ピアアドボカシー/・・・など。ここでは特別/専門アドボに限った話をする。→参考：子どもアドボカシージグソー図）

●大人が子どもの声を聴く必要性とは？

子どものケアをする大人が大人の都合で子どもをどこでどう養護するかを決めなければならないときなど。（子どもの一時保護、親の離婚裁判など。スクールソーシャルワーカーなども子どもの将来に関わるような事柄を決める際に特に必要）

●子どもの声を聴く方法の違い

- ・チャイルドラインは電話の声だけを使う（最近はオンラインチャット相談も利用されるそうだが）。それを聴く大人は子どもの声を頼りに子どもの気持ち、顔色、心の色までを感じ取り、応答する。
- ・子どもアドボカシーは子どもの声を聴くのに、言葉、声だけでなく、絵カードや動作なども使う。自分の気持ちや考えを言葉や声に出すのが苦手な子どもでも使える。

●子どもアドボカシーは子どもに気持ちや意見を聴いた後、子どもアドボケイトがそれを他者に伝えることになるが、必ずしもアドボケイトがそれをやるとは限らず、子ども自身が自分で意見を表明できる場合は子ども自らそれを行うこともある。

●どちらも大事な活動

共通して大事な点は：両者とも子ども自身の意見表明権を重んじて活動している点である。

もともと、子どもが言いたいことがあるのは当たり前。それをいつ、どこで誰に向かってどういうふうに表明するかしないかは時と場合による。意見表明をする（あるいはしない）のは、原則として子ども自身が決めることである。それが難しいときに、大人が支援する。その支援がチャイルドラインであり、子どもアドボカシー活動である。

本人の声を「持ち上げる」4つのピース＝アドボカシージグソー



WAG(2009) *A Guide to the Model for Delivering Advocacy Services for Children and Young People*,
WAG.を改変
(2019年子どもアドボケイト養成講座栄留里美氏資料より)

アドボカシージグソー ※イギリス・ウェールズで提唱されています

アドボカシー提供には様々な方法があり、沢山の人がアドボケイトとして支援することができます。

【フォーマルアドボカシー】施設であれば施設職員、学校であれば先生がしっかり子どもの声を聴いて子どものアドボカシーを行っていくことです。

【インフォーマルアドボカシー】親族、家族、近所のおじさんおばさん、友達のお母さんお父さん、子どもと縁のある色々な普通のおとなの人たちが子どもの相談にのって支援することができます。

【ピアアドボカシー】ピアというのは同じ背景を持つ仲間という意味です。同じ施設に入所している仲間、学校の同級生、部活の友達、色々な人がいます。

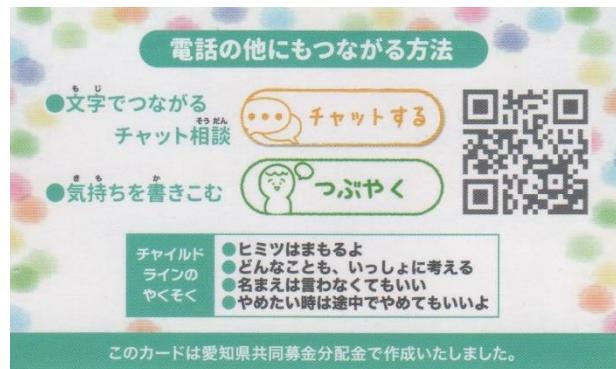
【独立／専門アドボカシー】独立のアドボカシー機関によるもの。

【セルフアドボカシー】子ども自身が声をあげること。

2021 年度 受信データ



小学生用



中学生以上用

チャイルドラインあいち実施概要 (2021 年度)

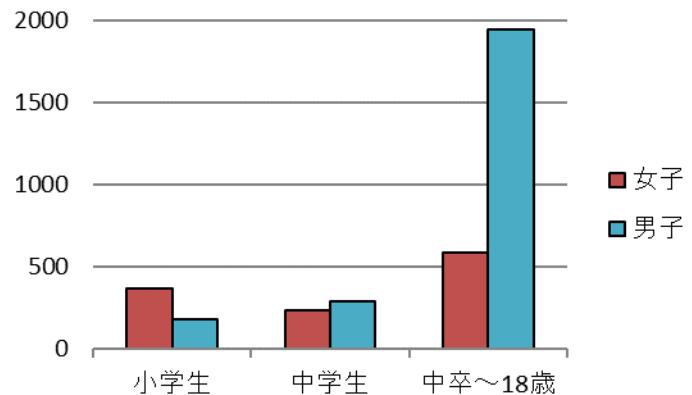
開設日	電話 : 隔週月曜日または火曜日・土曜日及び第4日曜日の16時~21時 オンラインチャット : 第2・4金曜日 18時30分~21時、第3土曜日 16時~18時30分
年間開設時間	電話 : 開設 105 日 525 時間 210 シフト オンラインチャット : 開設 38 日 95 時間 38 シフト
ボランティア数	受け手 71 人、支え手 18 人、スーパーバイザー 9 人、他* 20 人

*他はシフト以外の活動

全国各地のチャイルドラインで受けた愛知県の子どもからの電話

2021年度、愛知の子どもからチャイルドラインに62,791本の電話がかかりました。そのうち、電話がつながったのは19,073本ですが、無言11,171本、会話不成立のもの3,922本を除くと、会話が成立した電話は3,980本でした。

このうち、性別や学年がわかるもの3,623本について、右のグラフは学年別男女別本数、下の表は電話の内容として多かったものを学年別男女別に表にしたものです。(2022年5月3日現在集計分)



小学生女子（会話成立371本）

学校での人間関係	137本
雑談	38本
心に関すること	37本
いじめ	29本
家庭での人間関係	28本

中学生女子（会話成立234本）

心に関すること	66本
学校での人間関係	52本
家庭での人間関係	14本
雑談	10本
家庭での虐待	10本

中卒～18歳女子（会話成立590本）

心に関すること	186本
学校での人間関係	56本
進路・生き方に関すること	54本
家庭での人間関係	43本
家庭での虐待	30本

小学生男子（会話成立183本）

学校での人間関係	46本
いじめ	20本
雑談	20本
心に関すること	17本
家庭での人間関係	16本

中学生男子（会話成立290本）

性に関すること	127本
心に関すること	26本
雑談	14本
家庭での虐待	14本
学校での人間関係	14本

中卒～18歳男子（会話成立1950本）

性に関すること	1036本
心に関すること	168本
雑談	144本
恋愛	103本
学校での人間関係	74本

全国における発信数

NTTのフリーダイヤルのデータによると、2021年4月～2022年3月、全国の子どもたちがチャイルドラインに電話を掛けたのが457,714本、つながった電話は162,932本、複数回かけている人をまとめると、電話をかけた人は201,385人、つながった率は80.9%でした。

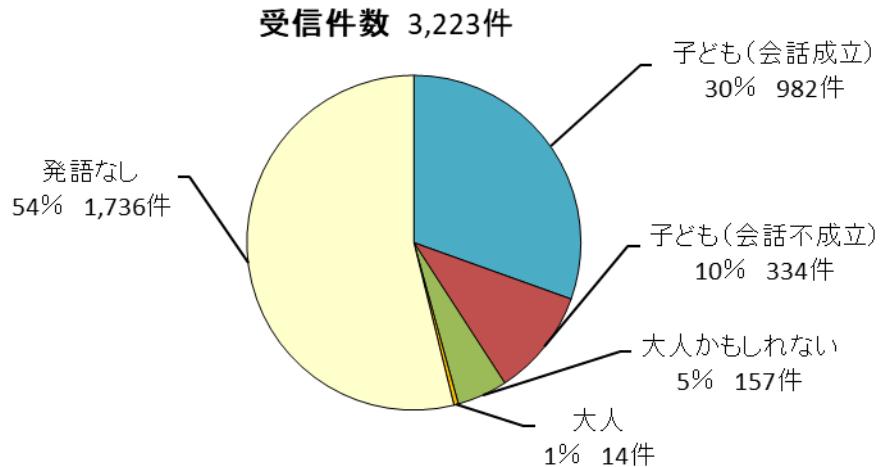
オンラインチャットではシステム上発信場所がわからないので、データを取得できません。

発信の多い県	東京都	愛知県	大阪府	埼玉県	神奈川県
発信数	66,282本	62,791本	55,992本	28,996本	25,231本

チャイルドラインあいちでは、愛知県共同募金会の配分金で毎年約85万枚のカードを作成し、各教育委員会及び学校のご協力で、子どもたちの手元にカードを届けることができています。毎年定期的にカードを配布していることが、愛知県の発信の多さに表れています。

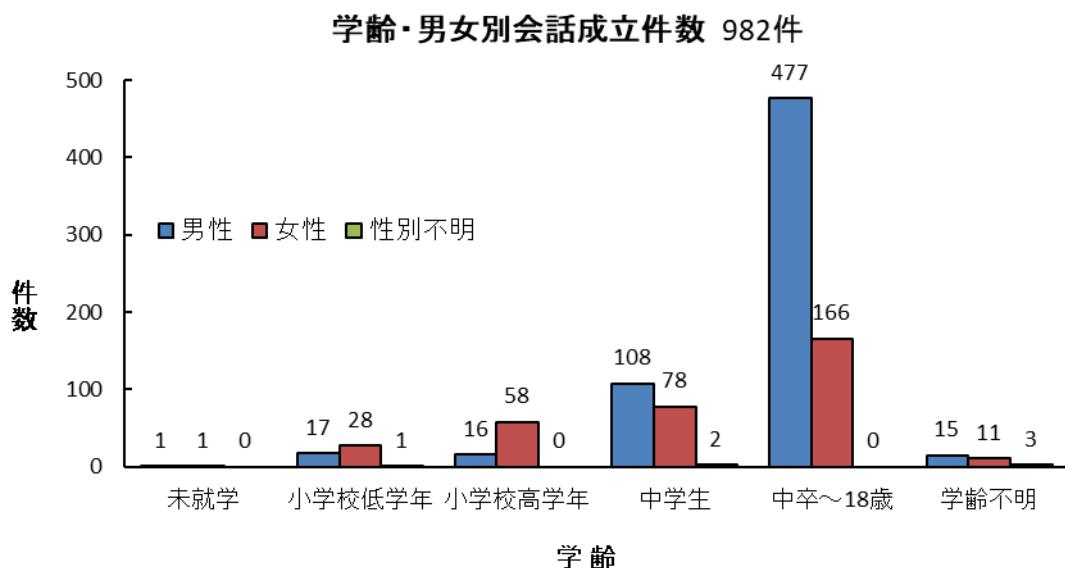
チャイルドラインあいちが受けた電話の概要

2021年4月1日から2022年3月31日までにチャイルドラインあいちが受信した電話の総数は3,223件でした。子ども（未就学児～18歳）からの電話は会話成立982件、不成立334件（いずれも男女・性別不明・年齢不明が含まれる）でした。ほかに、大人かもしれない電話157件（声や言葉遣いから大人とは断定できないものの、子どもとも思えない電話）、大人断定14件、発語なし1,736件、という内訳です。



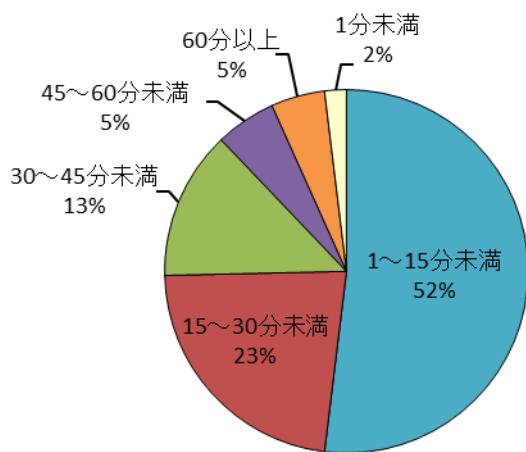
子どもからの電話で会話が成立した982件の内訳は男子634件、女子342件、性別不明6件で、電話全体の約30%でした。また、会話不成立の334件の内訳は男子が257件、女子が51件、性別不明26件で、受信した電話全体の約10%でした。会話不成立の中には一言だけで電話が切れてしまったものや、自慰行為目的などが含まれています。

受信した電話全体の約54%だった「発語なし」の中には、かけ手である子どもが受け手の声を探しているもの、電話がつながったものの話し出せずに切ってしまうものなどがあり、それも子どもの表現として受け止めています。

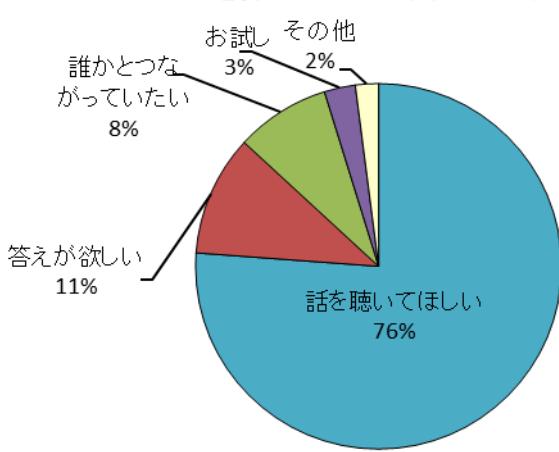


学齢別・男女別に会話成立件数を見てみると年齢が上がるごとに女子よりも男子の方が多くなっており、その中でも中卒～18歳の男子が最も多くなっています。これは名前を言わなくてもいい、匿名性が保証されているチャイルドラインならではと言えます。このことから、思春期の男子の生きづらさも見えてきます。

通話時間

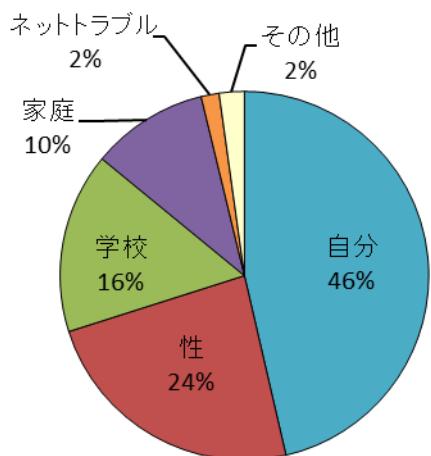


電話をかけた動機 982件



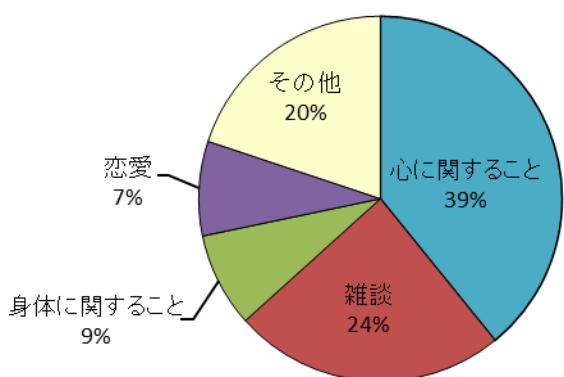
会話成立の電話で受け手が感じた「電話をかけた動機」を見てみると【話を聴いてほしい】が76%、【誰かとつながっていたい】の8%と合わせると84%になります。多くの子どもが「ただ話を聴いてくれる相手」を求めていることがわかります。それだけ子どもが孤独になっているということが読み取れます。

話の内容 982件



会話成立の話の内容では、成長の過程で自立していく年齢の中高生のかけてくる電話が多いことから【自分】についてが46%と多くを占めています。2020年度に引き続き COVID-19 の影響が続いているようです。部活の機会が減っているのか、2021年度はネットトラブルの件数が、部活の件数を上回りました。

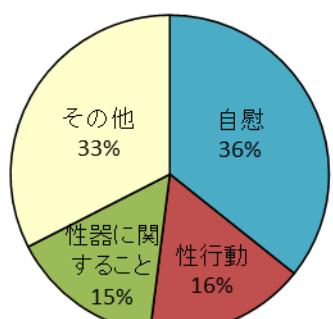
話の内容【自分】 442件



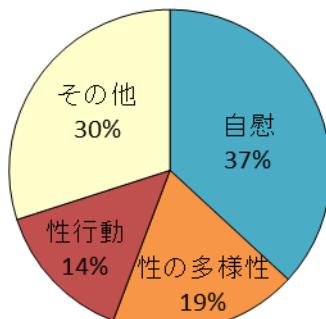
内容の【自分】の中で一番多いのは『心にすること』でした。次に多かったのは『雑談』です。動機からもわかるように、答えは出ないけれども誰かと会話をすることを求めています。昨年との違いは『身体にすること』が18%から9%に減ったことです。

話の内容【性】

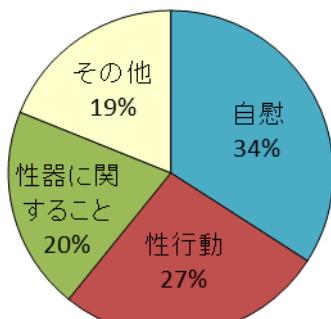
2019年度 375件



2020年度 217件



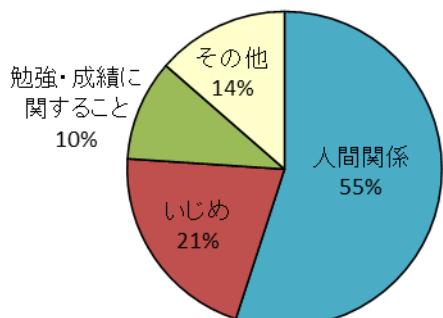
2021年度 217件



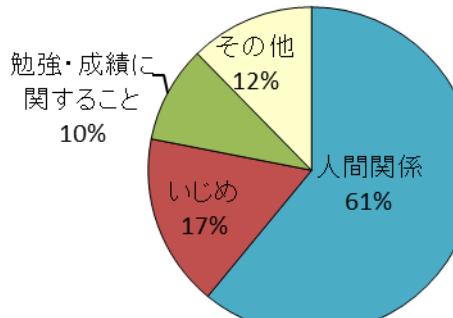
男子の大きな悩み『自慰』『性行動』『性器に関すること』で80%を超えるました。高校生男子の件数が多い所以がここにあります。性教育が十分になされない結果、悩んで電話をかけてきます。「自分は人とちがうのではないか」性の悩みが、実は人間関係にも影響してしまうという、男子ならではの悩みが表れています。昨年度だけ『性の多様性』という項目が19%ありました。

話の内容【学校】

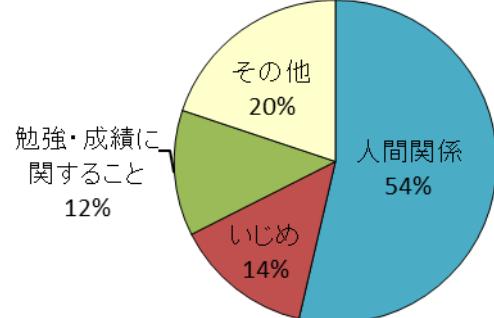
2019年度 309件



2020年度 146件



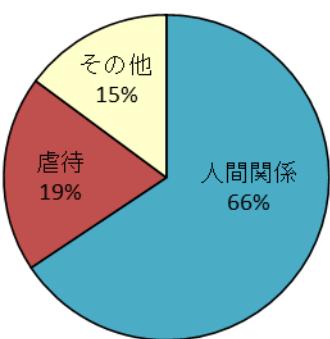
2021年度 151件



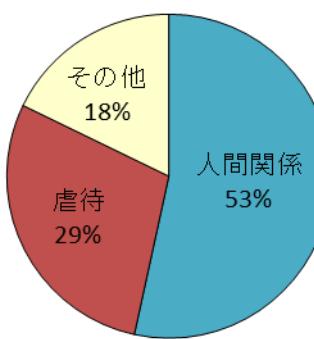
【学校】の中で一番多いのは『人間関係』でした。学校の取り組みが進んでいるのか、『いじめ』の件数を見ていくと、2018年度の24%から年々少しずつ減っているのがわかります。『いじめ』に関しては“いじめ”という言葉ではなく、人間関係の話をする中に別の言葉で表現されることもあります。

話の内容【家庭】

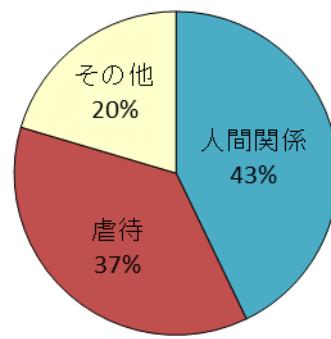
2019年度 195件



2020年度 73件



2021年度 98件

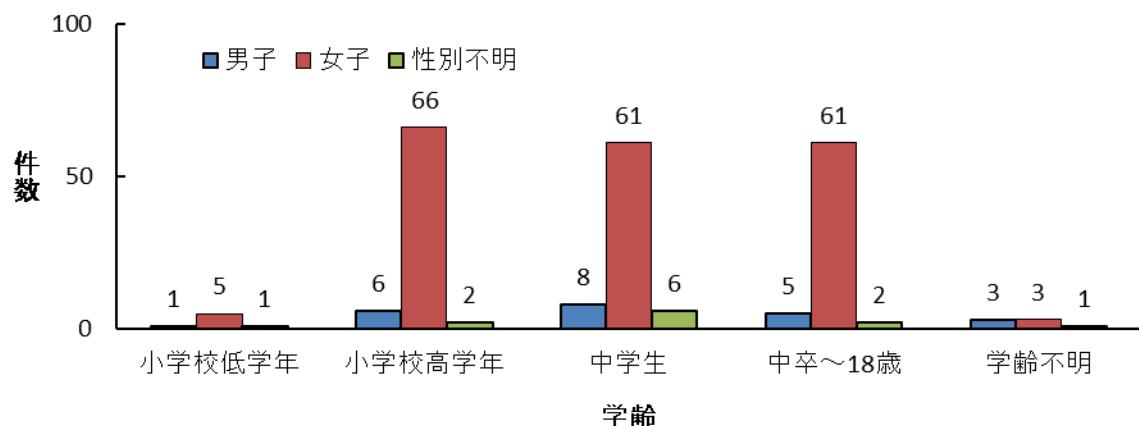


【家庭】の人間関係は両親、きょうだい、祖父母、義父、義母と様々です。ただ、一番安全なはずの家庭でも自分らしくありのままでいられず、居場所がないと感じている子どもがいます。【虐待】では子どもが虐待を訴えてくる事例もあります。昨年に引き続き『虐待』が増えているのは、COVID-19の影響が続いていると考えられます。

チャイルドラインあいちが対応したオンラインチャットの概要

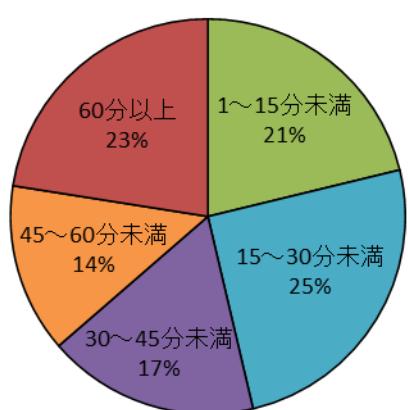
2021年4月1日から2022年3月31日までにチャイルドラインあいちが対応したオンラインチャットの総数は250件でした。子ども（未就学児～18歳）からのアクセスは会話成立231件、不成立19件（いずれも男女・性別不明・年齢不明が含まれる）でした。

学齢・男女別件数 231件

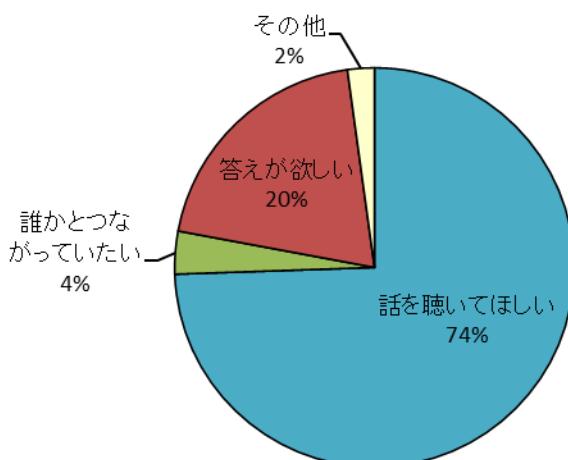


学齢別・男女別にオンラインチャットにアクセスした件数を見てみると、男子よりも女子の方が多く、今年度は小学校高学年、中学生、中卒～18歳が同じくらいになりました。小学生はパソコンからのアクセスが多く、中高生はほとんどの子がスマホからアクセスしてきます。そばに家族がいても移動中の電車やバスの中でもつながれるのがオンラインチャットの良さでしょう。

対応時間 231件



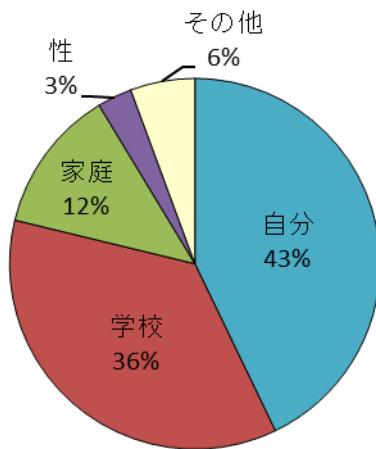
オンラインチャットにアクセスした動機 231件



電話と違い、1本に時間がかかるのは、文字でのやり取りをしているオンラインチャットの特徴です。

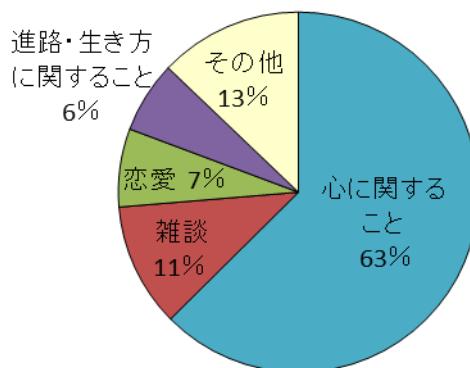
アクセスした動機は、電話と同じく「話を聴いてほしい」が圧倒的に多く、「誰かとつながってみたい」を合わせると、全体の約3/4を占めています。

話の内容 231件

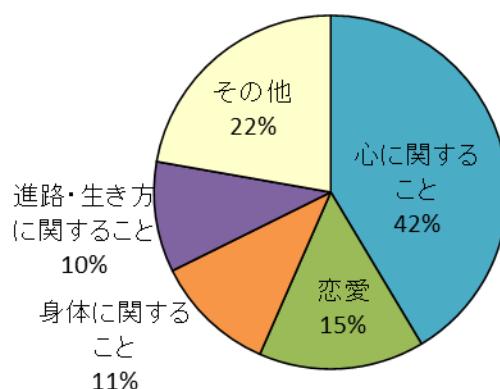


自分自身についてが 43% と 1 番多く、学校 36%、家庭 12% と続きます。電話との違いは性の話が少なく、これは男子からのアクセスが少ないからです。

2020年度 171件



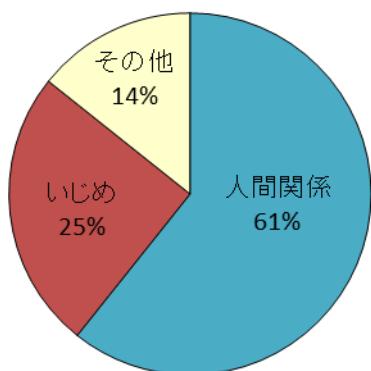
2021年度 99件



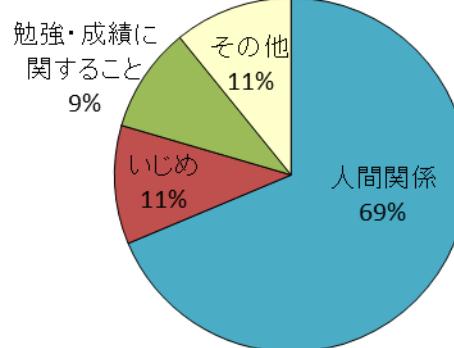
昨年と比べると『雑談』が減り、話したい内容を明確に持つてアクセスしてくる子どもが増えたように感じます。

話の内容【学校】

2020年度 84件



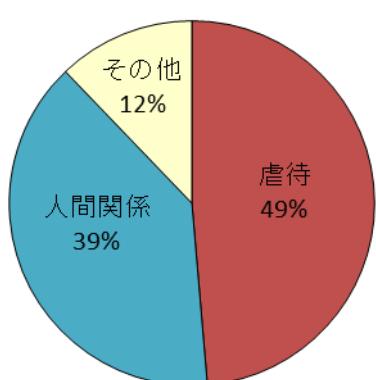
2021年度 83件



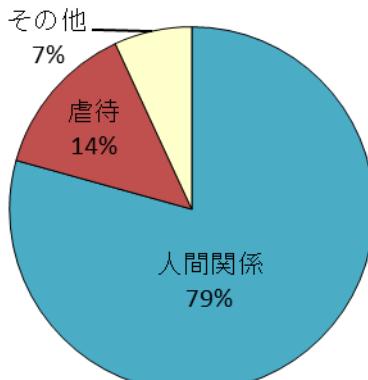
電話と同じように『いじめ』の割合は減っています。今年度は『勉強・成績に関すること』が増えました。

話の内容【家庭】

2020年度 74件



2021年度 29件



オンラインチャットにおける『虐待』の割合は大幅に減っています。しかし、これは電話の傾向とは大きく異なっています。

チャイルドラインにかかってきた子どもの声

チャイルドラインは、秘密を守ると子どもたちに約束しています。

ここに掲載する事例は個人が特定できないようプライバシーに配慮して再構成しています。

(チャイルドライン支援センターホームページより引用)



☆コロナ禍

- ・修学旅行がなくならないか心配。
- ・オンライン授業は楽しいけど、ずっと友だちと遊べなくてイライラする。
- ・テレビでコロナのことを見るのが怖い。
- ・ワクチンを打ちに行ったんだけど、やっぱり怖くなって打たなかった。
- ・みんな打ってるけど、ワクチン打つたらうつらないの？

☆家族関係

- ・姉がなにかあるとたたく。父母に話しても直らない。
- ・母とけんかしたら口をきいてくれなくなった。どうやって仲直りしたらいい？
- ・親が離婚。二人暮らしになった母から虐待されている。
- ・経済的な事情で塾に行かせてもらえない。進学はあきらめた方がいいかなって思う。
- ・受験で志望校に落ちたら親からの暴言が始まった。
- ・お母さんの病気で家の手伝いばかりさせられる。弟や妹がいるから、自分のことができない。

☆友だち関係

- ・文化祭で責任のある仕事を任されていてやりがいがある。
クラスの子たちがもう少し協力してくれるといいんだけど。
- ・仲良くなった子とケンカしちゃって、その後普通に話すことができなくなってしまった。
どうしたら元の様に話せるかな…
- ・友だちがいじめられてるところを見てしまったんだけど、何もできなかつた。
ほんとは助けてあげたかったのに。もっと強い心があれば助けられたのに。
- ・仲の良かった子に無視されるようになって、怖くて学校に行くのが不安。
- ・学校に行きたくない。自分だけ浮いている気がする。
- ・友だちができない。クラスの子がSNSで楽しそうな写真を上げているのを見ると悲しくなる。

☆子どものリアル

- ・夏休みの宿題が終わらない。お姉ちゃんは全部終わっててすごいなって思う。
- ・好きな先輩とイルミネーションを見に行く約束をして緊張してドキドキしてる。
- ・受験勉強してて、難しかった問題解けました！褒めてください！
- ・彼女から迫られて、断りきれずにやってしまった…大丈夫だったかな…
- ・SNSで知り合った人と会って写真撮ったけど、怖くなってきた。

☆こころの中

- ・死にたい。生きていたくない。原因はわからないけど。さみしいのかな。話してみたい。
- ・ネットでうつ病のテストしたら、当てはまるところがたくさんあった。
- ・日曜日になると学校のことを思い出して憂鬱になる。

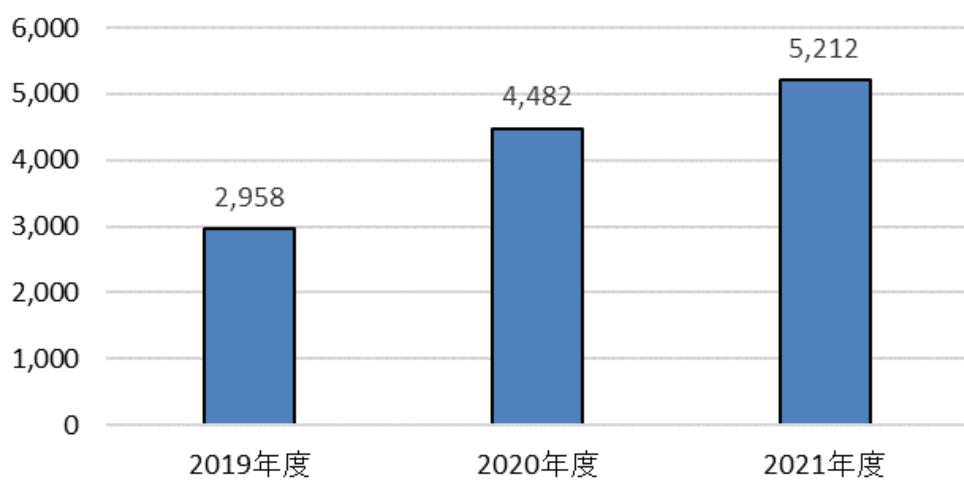
【特集】オンラインチャット

オンラインチャットの今

チャイルドラインでオンラインチャットが試行時期を経て正式事業になってから3年が経ち、2019年度には14だった実施団体も3年の間に25団体に増えました。正式に事業化されたことでフリーダイヤルと共に各団体の広報がされるようになったこと、COVID-19感染拡大でギガスクール構想も進展し、オンライン学習の環境が整ったことも手伝い、3年間で訪問件数・書き込み件数は2倍になっています。開設日も毎週木金と第3土曜でしたが、現在は毎週木金土と第1, 3水曜になってきており、チャイルドライン支援センターでは2022年度から、全国のチャイルドライン実施団体と共に2年計画でフリーダイヤルと同様、毎日実施を目指します。

子どもにとって、自分の部屋を持たない家庭などは電話でのアクセスは難しく、声を出さなくても対話ができるオンラインチャットのニーズは今後も更に増えていくでしょう。受ける側の私たちも、電話での経験がオンラインチャットには必要ですが、オンラインチャットでの経験が電話の受け方にも活きてきます。電話の受け手の皆さんにはぜひオンラインチャットの受け手にもトライしてもらいたいと思います。

全国のオンラインチャット受信件数



チャイルドライン支援センター『2022チャイルドライン年次報告』より

オンラインチャットで出会うこどもたち

学校や部活での人との関係を「上手く出来ない」とつぶやくこどもたち。お互いに様々な育ちがあり、様々な性格なのだから、状況次第ではギクシャクするのが当たり前だし、ギクシャクする関係も、様々な人が介在したり、時間とともに変化していくものなのに。画面を見ながらこどもたちの返信を待つことは不安で不安で心がつぶれてしまいそうになります。

関係を「上手く」しようとするあまり、自分の本当の気持ちに目をつむり続け、やがて本当の自分がわからなくなることもあるようです。

こどもたちは暗闇でたったひとりでもがき、不安から逃れるように短い動画やSNSの波に遊んでみるけれど、結局、知っている誰かや、見知らぬ誰かと自分を比べてしまい、「価値のない自分が生きている意味って何なの？」と重たく冷やかな気分に沈んでいきます。

一番身近な、甘えたって駄々をこねたって構わないはず家庭の中でも、自分の要望や、言動が「家族に迷惑や負担」をかけているとしか思えないこどもたち。両親のギクシャクした関係の中で不安を抱え、やじろべえのように揺れながら踏ん張って「こども」でいようとしているかに感じられます。

おとなが、こどもの頃に果たすことができなかつた何かを、こどもに代行させてはいないでしょうか？おとなが、扶養の義務を、何か経済的なアドバンテージと勘違いをして、こどもを束縛あるいは、コントロールしてはいないでしょうか？こどもを取り巻くおとなに言いたいことが膨らんでいくのをこらえつつ、こどもの「今、ここ」の気持ちに寄り添おうと、私たちは、日々奮闘しているのです。

詩人の金子みすずは、「私と小鳥と鈴と」という作品の中で、「みんなちがって、みんないい」と詠っています。その「みんな」が、学校や部活、家庭や地域で集うのです。その中で、関係を「上手く」しようすることで、こどもたちは、何を守り、何を得ようとしているのでしょうか。大切なたったひとりの「自分」を見失いながら。そしてその先に、こどもたちは、何を見出すのでしょうか。

短期間で費用対効果に優れた答えもどきを、誰かから一方的にもらうより、自分の「あたま」と「こころ」と「からだ」を駆使して、自分自身を生きてほしい。本来の自分を取り戻し、こどもが一人の「ひと」として、自分の人生を感情を携えて生きられるよう、正解も不正解もないけれど、こどもの心がほどける温かいやり取りをしているか？自問自答をしながら、パソコンの向こうのこどもと出会っています。

(オンラインチャット担当)

2021 年度 活動の記録

各部の活動

チャイルドラインあいちは定款*に則り、子どもの声を聴くために必要な事業を運営する「チャイルドライン部門」と子どもが生きやすい社会をつくるための事業を行う「社会基盤づくり部門」があります。

*チャイルドラインあいち定款

(目的) 第3条 この法人は、子どもがかける電話、オンラインチャットその他の遠隔コミュニケーションツールを用いた「チャイルドライン」を開設し、子どもたちの声を受けとめ、自立を援け、子どもの健全な成長のための社会基盤づくりに寄与することを目的とする。

チャイルドライン部門

- ① **ライン室**：電話・オンラインチャットを使って子どもの声を聴く活動の根幹となる部署。
- ② **宣伝部**：愛知県全下の小学生～高校生へ配るカードの印刷・仕分け・配達等の準備、実施を担う。
- ③ **研修部**
 - ☆**養成講座**：子どもの声を聴くボランティア養成講座の運営。昨年度発足した新たな講座チームで講座を実施。
 - ☆**支え手研鑽**：受け手を支援する支え手のスキルアップや課題共有など、現場で安心して受け手が活動できるための研鑽を行う。
 - ☆**ステップアップ研修**：受け手のスキルアップのための研修の企画、運営。子どもに信頼される受け手でいる為に現場での課題をもとに研修を行う。
 - ☆**グループ研鑽**：受け手同士が日々のボランティア活動の思いを共有し、仲間同士で学び合う研鑽を行う。

社会基盤づくり部門

- ① **研究部**：ライン室で受け取った子どもたちの声をデータベースに集積。報告書や広報紙にデータを提供し子どもの現状を社会発信する。また必要に応じて受け手・支え手にデータから見える子どもの声の傾向を共有する。
- ② **広報部**
 - ☆**ブログ**：HPのブログの執筆。日々の生活や社会の動きなどから感じたことを、チャイルドラインの目線で伝える。当番制で毎週更新。
 - ☆**広報紙**：会員向けの会報紙作成。研究部から提供されるデータから見える子どもの現状や、チャイルドラインあいの活動を外向けにも知らせる広報紙を作成。
- ③ **涉外部**
 - ☆**ファンディング**：チャイルドラインを理解してもらい、団体運営のための寄付集め等、財源につながる涉外活動を行う。
 - ☆**連携・交流**：チャイルドラインの活動を活かして対外的に行っていく事業を企画実施。
 - ◎**出前講座**：チャイルドライン活動での学びをもとに、一般向けに講座プログラムを作成し、広めていく。また会員間の学びのためのプログラムの検討。
 - ◎**あいサポート**：子ども関連の対外行事に参加して、子どもやおとなに対してチャイルドラインあいを周知し、子どもがアクセスしやすくするための活動。また、内部のボランティア同士のつながりを作るための企画実施。
 - ★**報告書作成チーム**：報告書のあり方について検討し、研究部から提供されたデータや1年間の活動をまとめて報告書を作成。

養成講座

2021年度はCOVID-19の影響が続きましたが、最大限に感染拡大防止の注意を払いつつ、「受け手・ボランティア養成講座」を開催することができました。1年前から養成講座担当チームを結成して、Zoom、ライングループを駆使して準備を進めてきましたので、首尾よくまた相互に連携して運営することができたと思っています。

21名の受講生を得て、16名の新しい仲間を迎えることができました。

実施日	内容 (講師名: 敬称略)
公開講座 11月23日(火・祝)	声をきく、声をあげる~エビデンスからのアプローチ~ 講師: 内田 良 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 教育学博士)
基礎講座 12月11日(土)	午前: ボランティアって何だろう? ~「素人だからこそ」を大事にするチャイルドラインあいちの学び方・考え方~ 講師: 渡辺 勉 (チャイルドラインあいち理事) 午後: 生きづらさを抱えた子どもたちの理解と対応~福祉・教育の視点から~ 講師: 渡邊 忍 (日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教授)
12月26日(日)	ワークから知る「聴く」ということ 講師: 佐竹 一予 (人間環境大学・臨床心理士)
1月15日(土)	仲間とのグループワークを通して、自分を知る 講師: 濱本 孝子 (臨床心理士)
2月6日(日) 延期 6月12日(日) 実施	心地よい人間関係の距離とは ~子どもの支援者としてバウンダリー(境界線)を学ぶ~ 講師: 徳永 桂子 (思春期保健相談士)
実践講座 2月6日(日)	チャイルドラインについて Zoom開催 講師: 高橋 弘恵 (チャイルドラインあいち専務理事)
2月23日(水・祝)	発達障害の子どもたち、家族への支援 Zoom開催 講師: 永井 幸代 (小児精神科医師)
3月6日(日)	午前: 電話で話される性 講師: 高橋 弘恵 (チャイルドラインあいち専務理事) 午後: 性と生を学ぶ ~思春期男子に焦点を当てて~ 講師: 村瀬 幸浩 (元一橋大学講師「人間と性」教育研究協議会幹事)
3月20日(日)	傾聴の基礎~「子どもの思い」を聴く 講師: 服部 はつ代 (チャイルドラインあいち代表理事・臨床心理士)
4月2日(土)	ロールプレイ~実践にそなえた体験学習 講師: 服部 はつ代 (チャイルドラインあいち代表理事・臨床心理士) 講師: 濱本 孝子 (臨床心理士)
4月24日(日)	最終打ち合わせ チャイルドラインあいちスタッフ
5月29日(土)	フォローアップ~実際に電話を受けて~ 講師: 服部 はつ代 (チャイルドラインあいち代表理事・臨床心理士) 濱本 孝子 (臨床心理士)

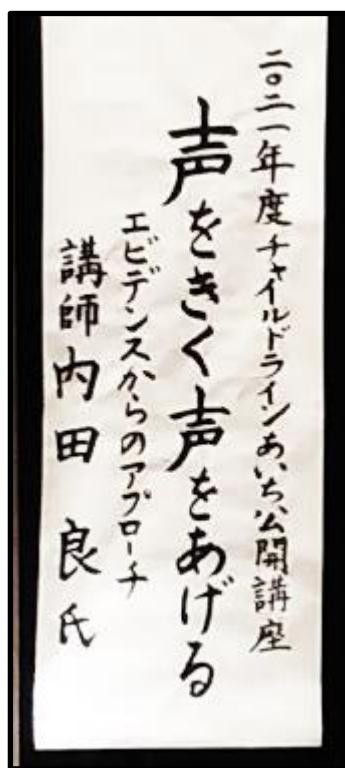
公開講座

2021年度公開講座が11月23日（火）イープルなごやおよびZoomにて開催されました。今回は昨年に引き続き、名古屋大学の内田良先生に講師をしていただき、「声を聞く、声をあげる～エビデンスからのアプローチ～」というテーマで、子どもや学校の先生に対するアンケート調査などから得られたデータを元に、子どもを取り巻く環境、子どもたちの現状についてお話しいただきました。参加者は、一般35名、会員30名、養成講座受講者20名、Zoom参加30名で、先生の柔らかい語り口と分かりやすいお話に会場は大いに盛り上がりました。

当日を迎えるまで、私たち講座担当者は一人でも多くの方に子どもたちの声に耳を傾けて欲しい、そしてチャイルドラインあいちの活動について知って欲しいという想いから、何度も打ち合わせを重ね準備をしてきました。その甲斐あって、こうして無事に公開講座を開催できとても嬉しく思います。

公開講座を皮切りにこれから養成講座が始まりますが、参加者の方の子どもを想う気持ち、ボランティア活動をしたいというやる気に応えられるような講座を作っていくよう頑張っていきたいと思います。引き続きみなさんから温かいご協力をいただけますと幸いです。

（チャイルドラインあいち 2021年12月会報紙より）



おわりに

— 2021 年度を振り返って —

チャイルドラインあいち代表理事
服部 はつ代

今年度の受信内容を見ていると、1994 年の「子どもの権利条約」批准から 27 年を経た今日、子どもの権利条約に掲げられている「生命や発達に対する権利」「子どもの最善の利益」「子どもの意見の尊重」「差別の禁止」といった基本的な子どもの権利が、ないがしろにされている状況ではないかとさえ感じてしまいます。

COVID-19 による社会の変化、それによる学校の先生、親たち、また環境の変化が大きいが、子ども達は甘んじて順応しているようにみえます。しかし、不登校、虐待、自傷、自殺、いじめによる重大事態などの増加は、非日常の生活をせざるを得ない子どもにとって、かつての当たり前の学校や家庭での生活が制限、中止され、自分の居場所や活動を失い、一人で葛藤を抱える状況を多くしてしまうことと関連するのではないかと思います。チャイルドラインにかかる電話やオンラインチャットが「話を聴いてほしい」（電話 76%、オンラインチャット 74%）が一番の動機で、半数近くが自分についての話題となっています。哲学者の鷺田清一氏が、“人生とは何か” “自分とは何か” 深く深く自分の心の奥底を探求した結果、「自分」は「他者」との対話の中で生まれることを発見した、と言われています。チャイルドラインの受け手は、対話を続ける中で子ども自身が自分に向き合い、自分の気持ちを整理して方向を見つけてくれるように子どもに真剣に向き合い傾聴しています。しかし、深刻でなかなか吐露されない「子どもの心の闇」に気付くことは難しく、当県の子どもの起こした大きな事件には驚愕しました。日常生活の中で、子どもの小さな異変に気付き、大人たちは「聴く力」を高めるとともに「話しかける力」を付けていくことの大切さを感じています。

最近の子どもの心について、ユニセフが、世界の 10 代の 13% が “心の病” と診断されていると推計する報告書を発表しました。（2021.10.4）コロナ流行前から「心の問題への対応がないまま重荷を背負って過ごしてきた」子どものメンタルヘルスの対応に周りの大人は十分な関心を払っていないと強調しています。また 2021 年 12 月、国立成育医療センターが小 5～中 3 のコロナ影響調査で 1～2 割の鬱状態がみられることがわかり、長期化するコロナ禍でストレスが高い状態が続いていると報告しています。そして今まで気づかれなかった「ヤングケアラー」が、小 6 で 15 人に一人いることや、「親ガチャ」という言葉も出てきて、子ども達のストレスを抱えた「声なき声を」どう掬い取るのかは、これから大きな課題となっています。チャイルドラインとしては、勇気をもってチャイルドラインに電話やオンラインチャットで表明してくれる一人一人の子どもの思いや感情にしっかりと向き合い、子どもの権利条約の理念をベースに活動していきたいと思います。

ご支援・ご協力いただいた皆様（敬称略・順不同）

2021年度チャイルドラインあいちは、多くの皆様のご協力を得て活動を展開してきました。
お名前を紹介し、心より感謝申し上げます。

【ご支援いただいている企業と個人】

NPO 法人名古屋おやこセンター、株式会社 養日化学研究所、伊藤 敏子、柄本 恵子、
金子 典子、菅原 操子、杉本 恵美子、鈴木 田鶴子、鈴木 利雄、長繩 光子、中村 佐和、
三林 久美、森 建輔、森川 雄基、森崎 恵子、山内 大輔、山田 真理子、横井 香代子

社会福祉法人 愛知県共同募金会

中部ウォーカソン

本州建設 株式会社

東海ろうきん NPO 寄付システム

イオン熱田店「幸せの黄色いレシートキャンペーン」

つながる募金

ギブワン

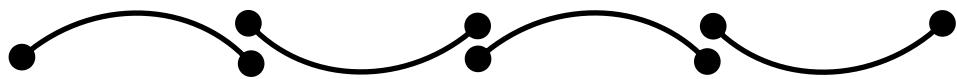
Amazon オンライン寄付システム

編集後記

2021年度実施報告書をお届けします。作業の一つ一つを、読んでくださる方に届くようにと考えながら進めました。電話・オンラインチャットを通して子どもたちの今に少しでも近づくことができ、その声を受け止め社会に発信していくよう、これからも活動を続けます。

今回ご多忙のなか寄稿してくださった子どもアドボカシーセンターNAGOYA 代表の奥田陸子様に、心より感謝申し上げます。（報告書作成担当）

きみのみかたになりたい



チャイルドラインあいち

特定非営利活動法人（NPO 法人）
チャイルドラインあいち

〒457-0007 名古屋市南区駄上 1-2 A320
TEL/FAX 052-822-2801
E-mail : info@cl-aichi.net
HP : <http://cl-aichi.net>

2022 年 7 月発行

この報告書は、 社会福祉法人愛知県共同募金会配分金により作成しました